# 宇治拾遺物語　八　（江戸後期）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

宇治拾遺物語八

宇治拾遺物語卷第八目録


一 大膳大夫は広太郎同事
二 下野国武正大風雨日条法性寺殿事
三 信濃国聖人事
四 敏行朝臣事
五 東大寺花厳会事
六 佩吟仏を射事
七 千手院僧正仙人と成事


三島

東京帝国大学図書館

あるまでも今はむかし。橘大納言成長といふ人の
五位あるを。法勝寺の僧供養の。鳥羽院法幸あ
るとけるに。宇治左大臣さいの行事をし給ふ。紀ノ大納言の
車引給へり。ちゝとしわ左府まのわ給へる。車場を
さくあるを。きれて法師の乃隨身あるを。車場をとり
よせ乃以去一人おりさりきるいとけふ事にとみる
ものとに。さをとせ行あさてゆくを。ゆくいつ所なる事ぞ
云へあれく礼節をて車場くさくあれて。法師の隨
身に乃おりさりよりよ。未練乃物をてあらわに出おわ
ざらしたるをとて。法師以去中あるうちをいつ所なる法
ありけらん。礼節とやいはんいとおろかなる人をとりまと

法ぎやうのわらくの事を道くして法車をまわしへて牛を
つれさしてゐて榻よりこれをくきてとをるきの
ようをして礼儀といやはなされよ行人車をくさ
へいとをもわをとりをてさらせて三位まつすると
も礼節をしていたで五位をつこたよいとこそみ
まを法きでさらん人ようあんでうのわいをんずる
ぞとおもくたりのをぐりをるにあ所をまりてさも
いたぐうちうせくく一ぬとでやさやとおいを法きた
以来年老いよくれでをくくうをふのいとやけ
きでたた大臣殿つぎのまいつぐあるべうんとそく
あれは方まのふまをしていいふいくんずるまを

おとやとさを行きれて以来あるまふくこれを輪のけわ
する所をしてをきをうにこで礼節をしてあんをるをて
はしをを今ハむりしたの野武をとよをくへ法性寺殿のおきうあ
ひ天風大雨ありて京中の家ども倒れたれ山のもけるて殿下
を来殿よりおそくまりけるに南面の方に乃ちをるを
あメーをう雖あんとれりかりて又を行よ武をあ
かりこををを義益をきてよくうへ縄を巻けて
くをりさりうへをのかりれを縄をてかけをてを秋
を法きてをまをりてかををのをなりけりを大くうれをををれ
ををしををををまを地を殿南おををへをを法蔵ちを出発
ををのををををくをりかりて出をを武をんををれをり

今もむかし伝濃国なる法師あつまをめぐる田舎うて
法師よりきれぐまぐ受戒をもとめいりて京にのぼ
りて東大寺といふ所にいりて受戒をんと思てとぶら
てたのかわるる受戒をうく事ありさてもとの所へ帰ん
とやうしん事もとめ[illegible]ふ所を毋佛毋男[illegible]
あるあるなりしもてにあるあんと思ふ心法さて東大
寺より仏の法をまなびよいてい法にの行してのどなりて
位ねべきあるあるとよろこびあるをえさらに生ふ
りの地乃ろうあるりく山りもかの人毋そこにかと
なれくもはんとおもて行く山乃はよりをもいさび
なくあるてをもとにおとこ海よりいさ剛の物の剛

ゐ給(けい)たとおもひけれバいかゞし侍らん。昨日河(やまかは)にてぞおもひし
ましき事なり。これにちかきは北堂(たう)様といへるにて侍るも
くるをもいつまで行くとて年月を送るほどに、おのが山に
きぬのもとに下(げ)を住人あつまり集めて、肱(ひだりはら)の床も
藤兼(すけ)卿は
清ねにて飛行(ゆきさ)清く抱ハ入りて北方大なるあとを倉(くら)の
あかぬ北あまりて抱とゞまりて、これおとに北の床も飛びて
まこと乃抱おいに北くさりける銭まいの床きるにより。
ゆかしく梅く清を北許よりて来りて倉乃もとみよ
おぼさだきて、人々に抱をいまださわぎければ、鉢ハ給
ねぶりけるに、おぼえに抱ども志つくめりて此鉢を
ともされば抱をいまだ北はやもいはずさて倉乃戸もと

さして既に深くなりぬるほどに、とだえくりあつまりて、おのおの
むぐら(?)のなかにゆきくと在る事かぎりなくと見えさぶらふを
みゆるぎなくて出たりと一尺斗ゆる北あり。あるを枕に
おもいつ明る事なくてとある人しかりてさなくて海を
くあるも清る鉢をとりもとれずあるも、それが始ぬる
かまどの志りもざりや、何どうなれど、宍おろの鉢飛も
まかりしりて、此鉢は飛乃つれて、それおかりしに宍を海
よ一二丈ばかりあがるさまにて、あがりけるほどに人々みの
志りあがるをさまざまあれこれか、飛の食をさらに
まくべき鳥うもなきれば、おのれ金の鉢いかんとあるを
こんとて志りよこそちりてゆくそのまゝのへても

れたるつとめ。さてこれで屋うく花く河内
ふるさと乃屋のかこの山乃はかをれ行く。
屋乃坊のうさぎにどうからぬ。ぬしあるほと
思くさりてあるべき事。秋ぐ。さと乃花ぬし屋乃
ちとよりちくや屋うめ。ふあさほしきまあん
さあるこ。さと乃鉢の法ねよまうでもれで拍入法く
さつ法ふ鉢ぎふまぢちくいはるなどに。会ろ
うちをきてちとしく。ちもいてそで屋うを
さていきれこ乃花ゆゆぎよ巻る拍く
ちてよけんあくまくでかちていこ乃ちあ
さきまいくけんとや附よほちとあやしきまとあ

と。あくきよきれく花ち。ちとせでちに
ち屋ち乃拍ちあきてちの法ち拍鉢をえんち
ち中あけん拍ちさふけちとと乃紙くぬ。ぬしよ
屋ちいちあしてかさちちまちまちとちとさん
千石法ちていやとけくちまいとあちきちあち。
さしかよ花ちくびくちせんとてさ乃鉢よ一表を
入ちく花ちれで形ちあどち法ち拍ちる屋うにのちれ
俵ちち法ちで拍ちゆるひすぎんあど乃やうにそび
法ぐ拍さちふ鉢ん法ふよいちくあさほしくさちせ
きれでぬ乃いよ屋ちちでしみれ法ちちて。
米二三百石いちぐめてちちせ法ん。といくぐ。屋ある

まづきまりありそれにてもていあてかくせん
といへさきたしさぐたうせ行ナサ越しそ
ましうんといへさきまでもへなき事ちあらばそ
もし乃家よりそうよれかちなりかるに
ゆうとく行て五ちなどにうの法延ちの法など
をもとくまづうせ行くさはくの法いのうも
法法法讀經あどうばはをう法ものど文ま
ちかうせうせ行さば。ある人乃ゆ角ゆ河内乃ゆ
信貴とゆ角ゆ六年来行く星へわる事もを如
屋人ゆ。うもこてをいうくさをうとく志ーあうく
法をあーきてぬあくうまう法ありかくれまと

志のあもうれをうて狐をうせ行たくあこ
ゆ法あんうとゆせ行さくて花人を法
法うれすてうーま法うもたいきて乃ゆに屋乃
さまのとまをうもめでゆーかうく宣旨うそし
めもあうどもくまつるべきよういへ屋ゆにー
まめもとそ我とて文ようあれ家もあればうく
法悩大事まかくーますれまつせ行へとゆへ
うもいまつうどもあうーれまつうせいえ
とつふさていはもーかくゆせかくーゆーをうと
もいそう屋乃をうまはをうべきとつへくうれったが
をうーとつへ事をうせ行さくとゆれかちそてかと

る乃ときつとゆくまてんこいんといふ人家あるゆ
ゑ法ぬまでゆくに乃こいれくさりをするといふ
人あり。ゐるとびくいりまきんこまの物来きてく
ちを開くめと思てゆ夜来大ちの大仏乃法の
ようておのうまてんのあと所をくへさせ法へと夜
一よりてこちまとろをとをゆ夜まこ乃佛作
あくをうをしぬる僧乃ありあをもあれもとろ
じ申乃あま山あるとを乃山ゆ雲ゆおびきたく
所をりてゐるとゆくとあくとくさをくまこば
あ法きまあまあり法しらをく夜のぬるよりし
と思くくれかくまこばかくとぬるこまありぬ未

申れくゆ人家りをれこ山りをかよゆるに菓乃
雲ゆ風ひきゆるうまてくてゆ物ゆ法をてり出
まを法ゆとまゆ堂あどまとまゆる所へまりてまく
物んこいん家ゆまをゆとゆくをををいでくこれく
法濃ありし家物あり。こハいりまして見いまり
ををゆでゆりををでこいくをありを法をゆ
ゆるをていりまをくをあくをつんあまを法をせ
あくんをくをくをを法ゆあれあゆをれきいでるを
これをゆくをいをいゆ物法あべくまをあをの中をき
いををくありくををまゆまを法をよきををををるゆりて
きをり。をあをゆををををを法をを紙きぬ

一重ねで[illegible]きるさていとさむしうときるにこれ
をきてこうきてゐるとゐるまだあてかのてしかりけり
さておりく人年おろかなこゝもきりさてきの乃姉[illegible]
きみをもとの乃通へ[illegible]ゆうかくこにおこ
あれこくそのけるおさてかくれ年はこのあく
ゐいとの乃こきてゐれきれこさてゐはあまくと
あってあるとゐゐ所のけりてききるこ[illegible]
あてこと所いれきるこの乃[illegible]てもくゐいの乃
きおとはかくめてきこあんあうこれあまと
をはゆだうとれどとの乃だうこ編よんまてゐこ
ゐ人えはをのにきりこその義も相[illegible]

いまこあんあうこの乃[illegible]
まをもゆ明治門を後わ辛てまつりてゐる人
もうあ明治法ぬいあうきるとされきく人縁と
ゐるくこ金石乃[illegible]
とてゐもいこ[illegible]ゐる所て今に人くぬ書こい
ふこの乃ゐをとんこまうまて乃あこあれ
きつとゐるとの
こはもいまはじ[illegible]とい奇[illegible]
[illegible]書[illegible]
二百部[illegible]

めくらをたゝくぞ待れ義経乃仰を承て畠山と
ゆきもかくせさ給ひ行べきかたへなくねりもさの所と
思ふくわらめくらくもり人ハよ寄せいふ所なる事までも侍ず
乃あ畠山乃ちゝもわきかくさぎらわれめ給ひみるやうと
さへざいさり也侍ぞし共にぞぬめりにめしておと侍き
うをあらそひて寄手なりそこハ渡る経やかましき
つよくもやめとさんとぞ思ふくかれなてやうりあらきさ
き敵方にちんりんいうなつかさ寄さするとてざし敵ぬめ
とも得しんぞも人乃つて侍ハ二百騎まうりかきて
るぶらんとおかわ椋るとやふさしそ事乃おさいぞて
きてさこ乃めんずゝにしまて畠あれとぞうつれ

くかうく思て事もわまで行わりに流まりしく人
むりゑくもりいおぐ渡りしと思ひをろかける事め
乃眼(まなこ)をとられて前あわら乃なかひらめ北口ハ
おもひさしど乃なかゝにおかう渡りし北岸まき志さゝる
軍兵鎧冑(よろひかぶと)きて馬共もいまもぬ馬共乃わ渡くぞて
二百人ざうるまあれハゆうがんうにて肝まよされいぬれ
命しぬ命き命ちもれどもぞ敵乃もあらだれき
寄せてらまぞて行くさそて此軍ハちん立てくのぬ敵から
めく在人ハよあまたもいる所る軍兵ぞとさへハ五百余
ぬりさ連てぞ渉り続わつくかく世そする絶とも乃
う乃もしさくにしらせく矢ゝもしきまれ極乱ありしも

さいつ。まつ。こへつよしもの是ゆるさるもよし紀州さるもむ海
ゑべくらしの海がうろ乃絶かき者てまつるさて奥城も
くれ女うもし命是くきよまつる事もおろてく
ゑをで女乃すとにをもてかきをもし者れでろ乃
初海乃ろおそれ是くかくいろ是き所よむまれく
海を稼ぐろうとしてしく行くんろ乃あ新せん
とうまくゆせがい乃者べきし乃程のてめさるべき
者べなあ稼ともおの愁よしわくゆさふあり
といよ所をもきろくあうにゑをもをもそうて
おまを城きくにしぬべきんちをさて氣城べいくにと
さてしかくまやれとどべきとうあめさゆ乃ろ

もちろ者ろと作る太刀刀りよて海が所をまが二百にきて
さ紀ろ各一きれだくろとてんとにろ乃二百のきれりよ海
ゑをもりまてきれをもゑのあるとてあるまんにを
ゑのくかゑくくとべきゑ城ろんをゑでゆくを者
がくゆきを者者とつんかろあんなをとてふさてろ乃
者城べいりれしてろ者をかくべきとろをべさろゑ
家をゑをゑをもてまりてをすあゑゑゆきを力を
あくべきよあくにろをよ。たゆゆむくろの。又
ゆををしゑ城る川あるとろれゑ城をれべをしくとろ
くゑまれくありてゑゑまをあり。あ角きれれを也
城とろくゑまをいろ城くをれゑ角いをゑみ乃いと

去との法る事どもを見我いうるあし。志て風めづり
あらしてゆまれきせ見ん法をこくそくのそなりしと思へる
家をむまて皆ちさまよのか是と見るに。いつしよと心ま
事どもさてをくいりの本意なんぞぞなとえへし。それに
かく其なるものの定やで経書を読んとの心の取経をこせと
其くうだえへしいまの門入経りのまかのさは定やで経りき
借と實しそあうえんとのか取まを捨とし法はそいのさく
厩乃人おりよ引きへ流。事のは法をする人の道へは殺行っゆく
人さしずよ待りとけ法き年ある。をのやすか越荒
あることのなとりどもをくたさいるは法る拙と云へ。ず
民捕をかるまくそぶ。あちわあくなて素てはと。

海安浪世典にて何事かせしとやうなるれど法をあすまも色
人の為あるへ入のきてうがんく法苑経を三百部あきたて待つる
こあくふるも抜きて海をそこうきなる家の介ハつま
よきてふくあるべきれども。ろの経出年そてすつらしまの
これうる段をうく法ありて書も為すうまへ乃か来てありめ
しもとぬる為の入乃ん為つ身のうまと入中もののともれてさし
るもれて為すての思乃すのく比をかすへきありとあるを能文
ぐ法る事ぞもしまつ去へ為氣をいって法をうんとせる時
も取くかく定ま経書供養せんとや取の為さて為ね越
るのれまをあんいつのことを法てねよのあされさるしれぬ
まうぬの法をかもとりもいとあらうふあくはそぬあめりとや

花厳経とかく。別講説乃あひだ梵語とさんぞう法
師中間よりて。忽ようせかもりぬ。いとく魅とう
ふ。乗枝をとらて魅をとりるのこと魅乃数八十別
て八十花厳経とあり。件乃枝の末大佛殿内東回廊の
おりはしき中つ忽りはねまふ後おのれ白樫乃木也。今仏蓋
乃さうへおとろくんとすんたちうびくくしのおさうへ枯とい
ぬ。乃金乃後師とりはまでも中間よる度ちかりて
後ナしもとりれを法師ちうしていはる事もられとまれ
ぬまりう。法魅乃枝のおこナ年年ごさ紀まそ。ぶふまちうし
くさうへ。ちうこ乃法乃枯木まて中ナてりてりぶ中さんへ手
家乃表とりる。御をおそうりぬ世乃まりしに備りまり

昔あるおとこ乃ふ人しくおこなの事とあわをわ。法師行
て坊さていつ。事おかし。西のうさ猛師ありぶ取ると
ゆうをとそ法ねはいまらてく物ゆてさしりるどうれわ
ぶさしくまいうとをれ。餅付家ナ千銭など入てまう
でさう所を恢て見法乃西ぶ法うれさるどれ。ゆふ乃
中ゆねうものて。結屋ゆうれ乃祖いちくくゆうとき事
あり。ぶ手本化会ナのく経をくゆちうてある
ちうぶんさ乃夜法普賢并象りよりてみし
法ごよいちぶ屋りて。おり人ゆうといれなれて。おう乃
僧所よりゆううきき事よとそいはれちうぶ屋りぬ
て。おうみちんとてちう屋りぬ。て賀乃法ふ童の

あるまとの雪乃さまは雪のいろのうつくしきをやとの
きをは仏ちとぞ花ぐうえまつせあり雪とをへて童八
ゆ六歳でゆんゆてまつりてはいより猫所我もつ人
ゑてまぶるまをやあるとて雪乃ちゑるよいねも
ををしてかきぬるゆわ九月廿日夫まるれい夜ちを
いまやくしく結ゆ夜まをあねんと思ふおどに東
まん山乃嶺よりの月乃出ろ雪ゆうまみて嶺八嵐
もいをしきまを乃坊が内ゑさしへろやうとてあかく
なりぬこれで普賢并白象と言て多くくをて
て坊のおよ立結へり雪をあくれるへくいるまぬ
雪いかりみまるやとつれなれでいくいまの童しか

まるくをれくいみじうたうをしとて猫所思ふ雪
をゆ法結をををちら後結へいてつれ同ごうは
みて結ゆ所と嶺所みなどへ結乃ひをくあるかをも
ををるぬまみて結へろハ所ををれぬ事こと公ちう
みれもれてくゆ中公をてんまを嶺うぎまをよ
あるまでとおもれてどうと矢城乃ちゆ法がいて雪
はおりみへゆるうへうちをあてちとつよくうく
いやうと村たりまれをれ腸乃雪とあるろ雪ゆ
うてを大をとうちを法おをくうて光もうせぬ公へ
ををるわをこし進行をとをて雪をあまハいうゆ結
へろでといいてをきまををまを涙ゆ男やけゆハ

聖は月はるとてみくらをたてまつりてあかきこもの
みをへて給へば仏をもんとして射つるなり仏こと
の仏あらはよりて矢はあらぬ方にぞ落ぬべきあやし
き物なりといへれども夜あけて四方をながめて見
れば一町ばかりの所に谷乃うちに大なる猟師
ありとぞ見を射とをされて死てふせり矢ぞ
ふかれば五智ゐれいかやうにぞうされきるなり猟師
なりけれども慈悲ありそれは猟をを射宮うれだけを
あらもしけるや

むかし山乃西塔千手院に住侍る静誠僧正と
申る人有て毎年熊野へ参る勝陀羅尼を
唱へて参詣しよりあり行ぬ年くるしく
思ひけり陽勝仙人と申仙人の弟子に成
給へる山乃坊の前を通るに乃陀羅尼乃
唱へ乃行ひ木れう人の居給へる僧正
あるとかやきれる
それ行ひきれて蛾乃ごとくに成給へる
僧正せう仙人のもとに参り弟子に成
給尼乃まことに参りてさいとはあらとの
ひきれぬ弟子成あきて接ぎられきを
行ぬそ此乃物語して今はさうとなんきてきらけるの

人きりよをさまして年をくるしきれば香炉の煙
とちかくしせ行へとれ行きれば僧正者品成らかくさ
しせ給きるふうの者ありて乃りて弟子人乃ぶりを
きりと成仙僧正へ成給へ者品成さしあぎてきをあり
きてくぞおくるいの仙人ハ弟子成給へ者
おくあいしてうせよきをとゝ成給へ
きるおりかくきるくまいるときれぞあくれ
ぶりしてぎ成ねよかききりまれきを